

**弊社CSR業務に関して、新聞紙上において以下のように紹介されております。**

2006年7月1日（土） 産経新聞 3面

## **福井総裁問題 私はこうみる**

### **規定ないこと自体、問題**

日銀の内規に（村上ファンド拋出は）抵触しないと説明するが、明確な規定がなかったこと自体、信頼確保のためのルールや制度を作っていなかったトップの責任だ。明文化されたルールに違反しないことは当然に過ぎず、一步踏み込んで日銀としての理念に反していなかったかを問うべきだ。総裁という立場は非常に高い倫理観、自己規律が求められるもので、もうけたからいけないのではない。トップ自らが理念を追求し規律していくべきで、（就任時に解約しなかったことで）出発点にも失敗があった。トップとして二重に責任を怠ったといえる。自己規律は自分で判断することであり、本心からどう思っているか説明し、良心に従って行動してほしい。トップの中のトップといえる日銀総裁に規律が働かないと、せっかく日本に定着してきたコーポレートガバナンス（企業統治）の流れが後退してしまう。金融政策の大事な時期という議論があるが、目先困るという考え方はおかしい。どれほど優れた経営者であっても、1人が抜けてだめになるような組織ならばもともと持続性に欠ける。まして、市場からの信頼性が失われているのであればなおさらだ。日銀はNHKと同様、一般的な株主がないし、組織として外からのチェックが感じられない。資産公開だけでなく、自分たちの理念を外へ説明し、広い意味でチェックを受ける機能があってもよい。資産公開など技術的なところに偏るのではなく、今回の問題をきっかけに全体として使命を果たすための体制づくりを図ってほしい。そうでないと、また違うところで問題が起きるリスクがある。

### **インテグレックス社長 秋山をね氏**

■あきやま・おね 慶応大経済卒。米系証券会社の外国債券トレーダーなどを経て、平成13年6月、社会責任投資（SRI）および企業の社会責任（CSR）の推進を行う調査会社「インテグレックス」を設立、代表取締役社長。内閣府国民生活審議会臨時委員、企業年金連合会理事など歴任。東京都出身。46歳